

第1回 1/400 初代ゴジラ (ゼネラルプロダクツ)の巻



このキットは私が初めて購入した「ガレージキット」です。当時「ゴジラ復活フェスティバル」等により模型業界にも怪獣ブームが起こり、バンダイ模型情報別冊誌上では速水氏(ネット上でお世話になっております)のGSV(ゴジラスーツバリエーション:モビルスーツバリエーションの怪獣版)が紹介されたりしておりましたがそれらは全て誌上の完成写真であり、「ガレージキット」というものが実際に売られているという実感は有りませんでした。それからしばらくしてこのキットの発売がアナウンスされ、掲載されたH誌(確か84年5月号)を購入して「4000円なら買えるかも」欲しいなあ..」とか考えていました。

夏のある日、馴染みの店にこのキットが入荷。「これがガレージキット..」中を見る事は出来ません。しばらく悩んだ後取り置きをお願いし、どうやって工面したか今となっては思い出せない4000円(当時高校生、決して簡単に捻り出せる金額ではない)を用意して購入しました。帰宅しドキドキしながら箱を開けたところがまさにこの写真の状態であり、カルチャーショックでした。ずっしりとしたメタルパーツ(というか全てメタルなのですが)、木製飾り台とネームプレート、シンプルながら素敵で格好良いボックスアート、賢を尽くす」とはこういう事なのだと感じ入りました(今回撮影の為に久々に手に取って見ましたが、いまだに魅力溢れる色褪せないキットだと思います。プロポーション的には昨今の食玩の方が優れている様な気もしますが、やはり「ガレージキット」と「玩具」は別物なのだ」と再認識しました。

「その怪物性」

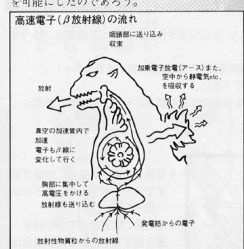
「ゴジラ」を海底深く密かに並行進行しつつけてきた生物としてのみ考えた時、それがあまりにも一般の生命形態を逸脱した「怪物性」を有している事は明瞭であろう。これは全て、莫大なエネルギーと放射線を利う熱核兵器「水爆」の影響によるものと解釈されている。

まず、体長50m、体重2万という、重金属並みの密度、他種の生物では考えられない重量が掛けられる。これは水爆を浴びた際、放射線と共に吸収した重金属イオンを全て体内の各部に沈着させているためである。(後で述べるが放射線自身は体外に排出している)特に、骨格と細胞は含有量が高く、顆粒状の重金属原子が付着して強靱な骨格や全身を覆う装甲のような表皮を形成しているのである。

次に、ゴジラの主たる特徴である「放射行動」が挙げられる。一般にいわれているように水爆によって体内に蓄積された放射線(β線)を排出しているわけだが、おそらく、それ以前から体内になんらかの放電器官を具えていたもの

熱光放射)である。

莫大な放射線を吸収し、前述の強靱な肉体をフルに活用して、絶大な攻撃力をもつ放射活動を可能にしたのであろう。



「その絶滅と現代への出現」
「ゴジラ」という種は何故、絶滅したのか。

それにも増して驚いたのが組立説明書です。普通はランナーや部品の図が載っている最初のページが、何か難しい左のような研究論文、まるで「子供は付いて来なくて良い」と云われているみたいでしたが、頑張って付いて行かなければと決意した私はこのページのコピーを持って担任(物理)にチェレンコフ放射(論文中にこの語句が有る)の何たるかを質問に行きました(先生は「物理がSFに成り下がったような気がする」と言い

キットデータ

メーカー	ゼネラルプロダクツ
スケール	1/400
材質	ホワイトメタル
当時価格	4000円 (税抜)

つつも説明して下さいました。有難うございました)。

これだけ感動させられたこのキットが何故未だにこの状態なのかというと、もうひとつの「初体験」に理由があります。ゴジラが火を吐くときに点滅する背ビレ、これをリアルホビーシリーズのモスゴジよろしく再現しようとシリコンゴムと透明樹脂を購入して複製に挑戦したところが見事失敗、仕方なくそのまま組もうかと思ったりしながらも諦めきれず現在に至っているのです。このメタルゴジラは最後の一匹なので...